



事務局

八峰町産業振興課 ジオパーク推進係  
☎0185(76)4605 FAX 0185(76)2203  
HP <https://geopark.town.happo.lg.jp/>



## 化石を発掘する楽しさ ~太古のロマンを味わおう~

TOPIC

八峰町の小入川地区では大昔の植物化石を発掘することができます。今回は、秋田まると地球博物館ネットワークの五井昭一さんに化石のお話を伺いました。

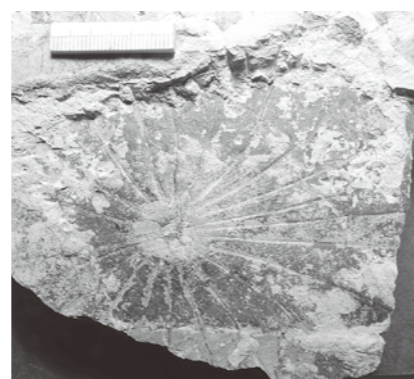
ジオ知識

### 小入川の植物化石

#### ▶ 小入川地区から産出する阿仁合型植物化石

皆さんは小入川地区から産出する「阿仁合型植物群」の植物化石をご存知でしょうか？「阿仁合型植物群」は今から約2,300万年から2,000万年前の植物化石群です。その頃の日本は寒冷化し、森林はヒノキやマツの針葉樹の仲間とブナやクルミ、カエデなどの落葉広葉樹の仲間構成されていました。

小入川地区からは、メタセコイアやスイショウなどの日本では一度絶滅した針葉樹の仲間や、ブナの仲間絶滅種であるアンチポフブナのほか「ウリノキ属」とされる落葉広葉樹、ヒシやハスなどの水生植物の化石が採集されています。



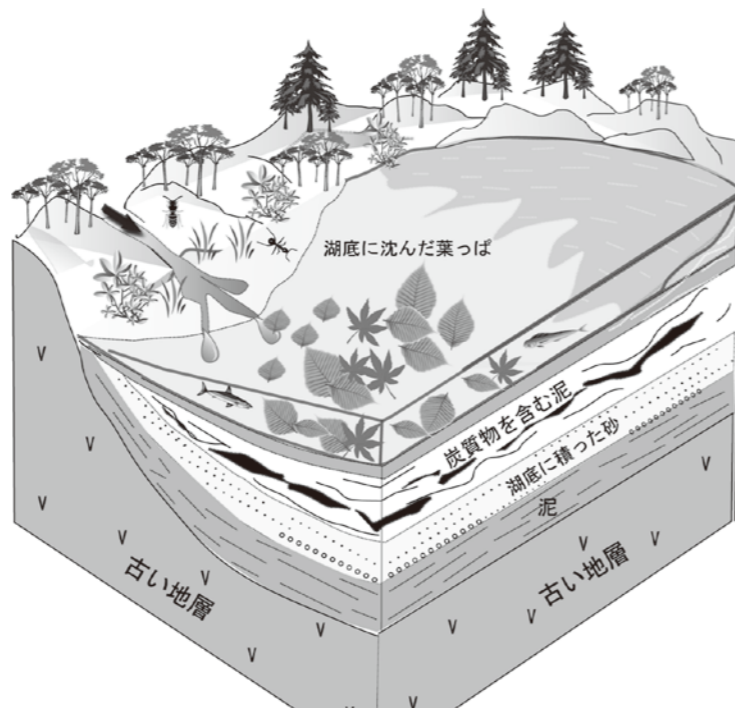
ハスの葉化石

#### ▶ 地層や化石から分かること

当時の小入川地域では、炭層とともに葉化石を含む泥岩と砂岩が水平に積み重なり、ヒシやハスの葉化石が産出することから、流れのおだやかな湖沼があったようです。また、植物化石の構成や葉の大きさから現在より冷涼で降雨量が多めであったと推測されます。

湖沼周辺にはハンノキ、ヤナギに交じってメタセコイアやスイショウの木が茂り、上流からブナやトチノキ、カエデなどの葉が流れ込みました。そして、泥や砂に埋もれたために低温と酸素不足により腐敗できず、長い時間をかけて石炭や植物化石となりました。

この石炭を採掘したのが小入川地区にあった発盛炭鉱です。炭鉱跡地では石炭の破片に混じって、植物化石を見つけることができます。今後は淡水貝や魚類などの化石も発見されるかもしれません。



小入川地区の当時の環境のイメージ図  
(出展：秋田まると地球博物館ネットワーク)

#### ▶ 五井 昭一 (ごいしょういち) さん

サラリーマン時代から趣味として秋田県内の植物化石を採集しています。定年退職後は「秋田まると地球博物館ネットワーク」に加入、主にジオパーク活動の支援を行っており、八峰白神ジオパークの設立にも関わっています。

これまで収集した化石の一部は秋田県立博物館や国立科学博物館に展示されています。皆さんとどこかの山中でお会いできるかもしれません。その時を楽しみにしております。



#### ▶ 貴重な化石を発見できるかも

皆さんも化石を採集した際には、必ず採集場所と日付を忘れないよう紙に書きとめ、学校の先生や博物館に問い合わせ下さい。そのような化石の中から、驚くような貴重な化石の発見につながることがあります。

特に絶滅種のアンチポフブナは、葉化石は多く産出しますが、殻斗(実を覆う殻)の完全な化石はほとんど採集されておりません。もし発見できればブナの仲間の進化をひもとく貴重な化石となります。



現生のブナの殻斗

#### ▶ 化石発掘のロマン

現在は化石を博物館やネットで容易に購入できますが、自分が苦労して採集した化石は、たとえ不完全な化石であっても貴重な宝です。

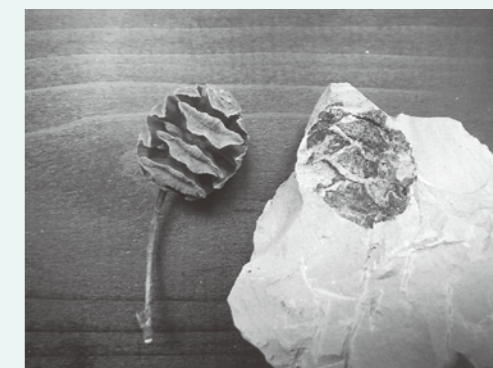
化石を得るために論文や地質図を読み、博物館などで化石のついた母岩を観察し、産地に行つて何百万年・何千万年眠っていた化石を掘り起こす。石を割って化石が現れた瞬間を目にしたことがありますか？化石に鮮やかな色がついています。空気に触れ数分で変色してしましますが、発掘した人にだけ味わえる至福の時です。自ら採集した一個の化石には苦労と喜びの物語が詰まっています。もちろん貴重な化石や保存状態の良い化石は博物館や研究者に引き渡します。そしていつか博物館の展示や研究者の論文に掲載されれば嬉しいかぎりです。

地球にはまだまだ多くの化石が眠っており、皆さんの発掘を待ち望んでいることでしょう。ぜひ太古のロマンを味わっていただきたいと思います。

おまけの話 ぶなっこランド森林科学館でも植物化石を展示・紹介しています。



現生のブナの葉 (左) と化石 (右)



現生のメタセコイアの球果 (左) と化石 (右)